

テーマ①：高齢者が安心して生活できるまち（発表の要点）

めざすまち（テーマ）の実現に必要なこと

- A つながり、交流を築くための場と機会の創出
- B ボランティア体制の確立（ボランティアのあり方、確保）
- C 高齢者の外出（移動）支援
- D 高齢者の得意なことを引き出すしくみ、活用するしくみ
⇒ 生きがいづくり



地域ができること

- 全体** 日常からのつながりの強化（大家族化、多世代交流の実施）
（課題：個人情報取扱が障害となることあり）
- A ・地域の中核となるリーダーと組織づくり
（課題：地域のリーダー、町内会の役員の負担が大きい）
 - ・小規模ネットワーク事業（見守り、生活支援など）
= 高齢者の生活課題を発見、共有、解決できるしくみ
- B ・住民による座談会（地域の課題の抽出）
 - ・サロンの開設（交流と生きがいづくり、介護予防活動）
- C 高齢者の外出（移動）支援 ⇒ 住民同士で実施



自分や家族ができること

- A ・町内会への加入、地域活動への参加（とくに親子、若者）
 - ・家族など身近なつながりの強化
- C 移動や外出時における家族の送迎
- D ・高齢者自身の能力・経験を活かし、地域に貢献（参加）
 - ・高齢者の自立 ⇒ 生きがいづくり
（若い人は忙しいため、高齢者が主体となった活動）
 - ・「待機高齢者」にならない（引きこもらない）

その他 食事、運動、休養などの正しい知識と実践



行政が担うべきこと

- 全体** ・地域の状況にあった支援
（モデル地区の紹介などの情報、地域の事業への財政支援）
 - ・しくみづくりのリーダーシップ
 - ・地域活動に関する相談窓口（アドバイス、事例紹介など）
 - ・身近な相談窓口（中学校区に1つぐらい）
- C 高齢者の移動手段の確保
（免許返納をしても、身近な交通網がないため外出できない）
- D 「待機高齢者」を活用するしくみの構築

その他 正しい知識（運動、食事、休養など）の普及

テーマ②：交通事故が少ないまち（発表の要点）

めざすまち（テーマ）の実現に必要なこと

- A 交通安全意識の向上
事故が多い世代に対する啓発
- B 交通ルール、マナーの浸透
- C 交通基盤整備
- D 自家用車以外の公共交通の充実
- E 自動車の産業技術の発達



地域ができること

全体

- ・声を掛け合える近所づきあい

- A ・地域での交通安全の声かけ（ポニターや町内会など）
- B ・地域での自発的な啓発活動の実施
 - ・地域特性に合った啓発・安全対策
- C ・交通危険箇所の情報の集約や共有



自分や家族ができること

- A ・家庭や事業所内での声かけ
交通安全の役割を持たせ、交通安全意識を高める
 - B ・学校・事業所での交通安全講習
 - D ・自家用車を使わない生活
- その他** ・家庭での交通安全のルールづくり
・交通安全の誓いの唱和



行政が担うべきこと

全体

- わかりやすい窓口の設置
 - 危険箇所の情報の把握・データ分析
 - 推進すべき事項の整理
- A ・交通安全啓発活動の実施
 - B ・交通安全教育、出前講座の実施
 - C ・危険箇所の改良・修繕、道路整備
 - ・交通標識、自転車専用道の設置
 - D ・公共交通の整備
 - E ・自動運転技術の開発を補助

テーマ③：子どもが健やかに育つまち（発表の要点）

めざすまち（テーマ）の実現に必要なこと

全体

- ・ダイバーシティ、ユニバーサルデザインの視点
- ・大人の寛容さ（保育園・学校が迷惑施設・・・）
- ・失敗を認める社会、やり直せる社会、逃げることができる社会

A いじめ・不登校対策

- ・悩んだ子どもが相談しやすいまちづくり
- ・学校に戻すのではなく「違う場所」の確保、脱競争優位

B 母子家庭など生活困窮家庭への支援

C 子どもの安全安心



地域ができること

全体

- ・子どもを見守る（登下校など）、異変の通報
- ・地域が学校を支援、介入

A 子どもの居場所づくり

B 外国人の子どもの支援（日本語指導の支援など）



自分や家族ができること

全体

- ・フリーライダーにならない
- ・子どもの見守り・観察、異変の相談
- ・父親、祖父母の子育て参加（孫育て）

A 学校に戻そうとしない

- ・子どもを信じる（説教をしない）



行政が担うべきこと

全体

- ・歳出のムダ削減→教育基金などの創設

A 子どもが相談しやすい環境づくり、職員体制の充実（セラピスト養成、カウンセラー配置・権限付与）

- ・学校以外の子どもの居場所づくり（適応指導教室の増設など）
- ・倫理に関する教育（子どもに考えさせる）
- ・いじめを認めない学校風土の改革、教師の感度向上
- ・不登校に対する学校の認識是正（本人の認識とのギャップ）

B 教育費用の負担軽減（高校卒業までの現物給付など）

C 街灯、信号、横断歩道の充実

その他 ・婚活支援

テーマ④：地域のつながりがあるまち（発表の要点）

めざすまち（テーマ）の実現に必要なこと

A 地域の自治と協働

B つながり、交流を築くための場と機会の創出

交流の機会：子ども、高齢者、外国人など多様な方が参加するイベント（例：町内会のお祭りなど）

交流の場：複合施設、コミュニティガーデン（花植え）など
※新たな施設などを作るのではなく、既存のものを活用

C 住民（とくに若者）が参加するしくみ



地域ができること

A 中核となるリーダー、組織づくり

B イベントの開催、運営

（課題：役員の負担が大きく、なり手がいない）

C 住民が参加したくなるしくみづくり

その他

- ・おせっかい
- ・寛容（子どもの声に対する苦情など過敏にならない）



自分や家族ができること

全体

- ・あいさつ、声かけ
⇒ つながりづくりの基本、まちのイメージが良くなる
- ・地域活動への参加（負担なく受益だけ得るのはだめ）
※町内会未加入でもペナルティがない（メリットが見えない）
- ・寄附
- ・クレーマーにならない



行政が担うべきこと

全体

- ・しくみづくりのリーダーシップ
- ・町内会などのコミュニティのあり方（システム）の見直し
⇒ 理想のコミュニティ像を示すこと
- ・モデル地区の紹介
- ・多様な主体や活動をつなぐコーディネート役
- ・地域の状況にあった支援
- ・自治の芽がある地域への支援
- ・地域のリーダーなど人材育成
- ・基金の設立

テーマ⑤：コミュニティ交通の利便性が良いまち（発表の要点）

めざすまち（テーマ）の実現に必要なこと

全体

- ・ 75歳以上の高齢者（免許返上者）の足の確保

A・買い物・病院と各地域を結ぶ利便性の高い交通網の整備

B・アクセス・利便性の向上（バスターミナルの改良など）

C・コンパクトシティ化

- ・ 病院、買い物に行くことが不便で無ければよい
⇒ 利便性の向上にはきりがないので、諦めも必要



地域ができること

A・乗り合いなど、地域での足の確保

B・地域ごとでの意見の集約



自分や家族ができること

A・公共交通に対する理解を進める

⇒ 便利さを全て均一に提供するのは無理であることを理解する

C・駅周辺に住む

- ・ 自家用車に乗らず、公共交通機関を利用する



行政が担うべきこと

全体

- ・ 地域の実状に合った交通の提供（一定の収益性確保も必要）

A・公共交通に関する情報分析や発信

- ・ 必要に応じてタクシーチケットなど、ほかの手段への変更

- ・ デマンド交通の検討

B・交通環境の整備（移住者に春日井を選んでもらうための駅からのアクセスのよいまちづくり）

- ・ 公共交通の利用促進

C・歩いて生活できるまちづくり

テーマ⑥：自然環境を次世代に引き継ぐまち（発表の要点）

めざすまち（テーマ）の実現に必要なこと

全体

- ・人づくりと情報発信

A 身近な自然環境の保全

- ・市民意識の醸成、管理への参加 ⇒地域への愛着
- ・生物多様性、里山保全、人・動物・鳥の共生
（昔に戻すのではなく今ある環境を改善する姿勢）

B ごみの減量

C 地球環境の保全



地域ができること

全体

- ・知識を地域に伝える、共有する
- A 街路に花植え（住民主体の環境美化）
- ・情報発信（里山の樹木の冊子づくりなど）
- ・体験学習



自分や家族ができること

全体

- ・学んだことをみんなに教える

A 自然を楽しむ

- ・環境美化活動への参加（アダプトプログラムなど）

B 生ごみの堆肥化

- ・ウォーキングしながらごみ拾い ⇒高齢者の健康増進

C 小まめな節電、自動車に乗らない

- ・省エネ製品の購入、高効率機器への買い替え
- ・クールチョイス（賢い選択）



行政が担うべきこと

A 市民のアダプトプログラムを支援

- ・街路樹の剪定基準の見直し（剪定しすぎ、工夫が必要）
- ・公園の植栽の見直し（大きな木陰づくりとベンチの設置）

B 公園へのごみ箱設置

- ・カラスによるごみ散乱防止対策
（根本的解決に向けた研究、パトロールなど）
- ・生ごみ堆肥化の普及

C 再生エネルギーの普及、ビジネスへの活用

- ・地域特性に合った省エネ対策（効果の把握）
- ・ライフサイクルコストを考慮した再生可能エネルギーの研究、FS調査（実行可能性調査）
- ・市民環境アカデミーの開催